

《標準臨床検査学》

病理学・病理検査学

矢富 裕, 横田 浩充 シリーズ監修/仁木 利郎, 福嶋 敬宜 編

病理検査技術を学ぶための基本的教科書

群大大学院教授・生体情報検査科学

福 田 利 夫

臨床検査技師をめざす人のための教科書シリーズとして定評のある医学書院の“青本”シリーズが全面的にリニューアルされ、その第一弾として『病理学・病理検査学』が刊行された。

『標準臨床検査学』シリーズは、『臨床検査技師講座』(1972年—),『新臨床検査技師講座』(1983年—),さらには『臨床検査技術学』(1997年—)という医学書院の臨床検査技師のための教科書の歴史を踏まえ、新しい時代に即した形で刷新されたものである。

この青本シリーズは、①臨床検査技師の標準的な養成カリキュラムに対応、②臨床検査技師国家試験出題基準に完全対応かつ必要にして十分な記述内容、③医師と臨床検査技師のコラボレーションで生まれた教科書シリーズであり、2013年春までにすべての科目の発刊が予定されている。

本書の前身の『臨床検査技術学 5 病理学・病理検査学』の刊行は2001年であり、その後10年の間の病理学、病理組織検査、細胞診検査の進歩には目覚ましいものがある。本書はそれらの進歩を積極的に取り入れ、わかりやすく解説している。

特徴の第一は医師と臨床検査技師のコラボレーションによる新しい教科書シリーズの一巻であることである。病理検査学の基礎となる病理学総論、病理学各論から始まり、実際の診療や研究の現場のトピックスも適宜紹介されており、卒業までに習得しておきたい病理学の要点と病理検査手技の基本を網羅し、それらを豊富な写真や図表で丁寧に解説している。そのため、授業や実習を受けるときの教科書として効率よく学習でき、さらに参考書として、予復習や試験前の確認に最適である。

第二の特徴は臨床検査技師国家試験出題基準に沿って編集され、国家試験をクリアするための必要、十分な内容が網羅されていることである。

あらためて「臨床検査技師等に関する法律施行規則」に定める試験科目を確認してみると、病理組織細胞学の分野では、①人体の構造と機能、②医学検査の基礎と疾病と関連、③形態検査学が該当している。当然本書はこのすべての項目を網羅しているのに加え、病理検査業務でその重要性が高くなっている免疫組織検査法、遺伝子検査法や、細胞診検査で近年導入されている液状処理検体(liquid based cytology; LBC)、ベセスダシステムについても解説されており、最新の検査技術を学ぶのに十分な内容である。さらに病理学・病理検査の基本である病理解剖検査法については、それが法的に知っておく必要のある項目であることを含めて解説されている。また病理検査の基本的手法でありながら、近年その重要性が忘れられつつある電子顕微鏡検査法についても、標本の作成法、観察法が解説されており、臨床検査技師国家試験の対策はもちろんのこと、現在の医療の中で臨床検査技師が学ぶべき病理学・病理検査学の範囲を網羅した教科書である。

本書により、多くの臨床検査技師が育ち、医療の現場で活躍されることを願っている。



●B5 頁296 2012年
定価4,200円
(本体4,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-01435-9]
医学書院刊 ☎ 03-3817-5657